



地すべり地質の区分 (露原明敏による)

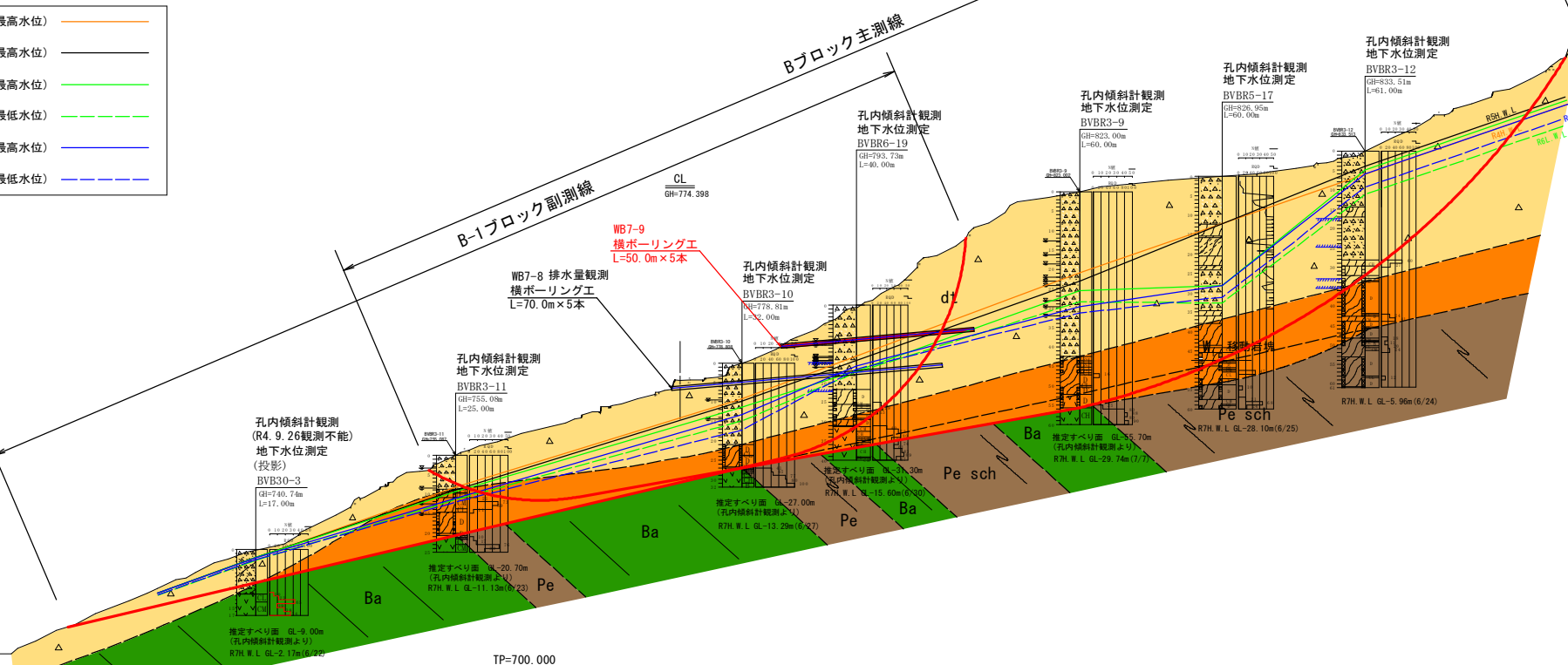
区分	名称	ボーリングコアの形状・色調	構成地質および性状
d1	崩積土	土砂状 褐色系	いわゆる広義の崩積土にて、礫混じりローム、礫混じり粘土、および硬質粘土・擾乱粘土などの褐色系、色調は褐色を主色調とする。旧期の崩積土はDc、景観中における粘土状の擾乱部はDc、細片～破片状の擾乱部はDr (Disturbed rock) で表示する。
W1	強風化岩	土砂状 原岩色系	原岩色系の粘土・硬質粘土ならびにシルト、および木固結の砂状を呈するもので、粘性土類については「岩細織」を残存し、砂質土の場合は同一の構成土質であることを原則とする。この場合、仮に色調が褐色系である場合は「 $W_1$ 」で表示する。
W2	風化 硬砂岩	細片～破片状 原岩色系	原岩色系の細片～破片状コア (中・古生層)、あるいはやや細まった塊状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表露出ではCracky rock (亀裂に富む岩)、あるいは軟質基盤岩として観察される。この場合、仮に色調が褐色系である場合は「 $W_2$ 」で表示する。
W3	弱風化岩	円板状～塊状 原岩色系	原岩色系の円板状～塊状コア (中・古生層)、あるいはよく細まった塊状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表露出では新鮮な基盤岩として観察される。この場合も褐色系の場合は「 $W_3$ 」で表示する。
Rf	基盤岩	塊状 (完全?) 原岩色系	新鮮な基盤岩にて、岩質のいずれも問わず塊状 (完全?) として採取され、全般的に硬質なもの。

R4H. W. L (R4観測中の最高水位)	—
R5H. W. L (R5観測中の最高水位)	—
R6H. W. L (R6観測中の最高水位)	—
R6L. W. L (R6観測中の最低水位)	---
R7H. W. L (R7観測中の最高水位)	—
R7L. W. L (R7観測中の最低水位)	---

横断図 S=1:600  
Bブロック 主測線

—凡 例—

- Dc 崩積土
- tr 段丘堆積物
- Pe sch 破砕泥質片岩・泥質片岩移動岩塊 (W~W)
- Pe sch 泥質片岩 (W~RF)
- Pe sch 緑色岩 【地下水係層結果】
- すべり面
- 流動層
- 地層境界



TP=700.000

安全率推移表 (Bブロック全体主測線すべり)

年度	R4	R5	R6	R7
安全率	R4H. W. L時のFs=1.00 B 全体すべり C' = 25.0kN/m <sup>2</sup> φ' = 21.30° γ' = 18.0kN/m <sup>3</sup> R4 H. W. L-5.0m低下時 Fs=1.037	R4H. W. L時のFs=1.00 B 全体すべり C' = 25.0kN/m <sup>2</sup> φ' = 21.30° γ' = 18.0kN/m <sup>3</sup> R5 H. W. L時 Fs=0.996	R6H. W. L時のFs=1.00 B 全体すべり C' = 25.0kN/m <sup>2</sup> φ' = 22.08° γ' = 18.0kN/m <sup>3</sup> R6 H. W. L-5.0m低下時 Fs=1.103	(すべり面変更) R6H. W. L時のFs=1.00 B 全体すべり C' = 25.0kN/m <sup>2</sup> φ' = 20.40° γ' = 18.0kN/m <sup>3</sup> R6 H. W. L-5.0m低下時 Fs=1.037 R6 H. W. L-3.0m低下時 Fs=1.053 R7 H. W. L時 Fs=1.037
対策工				

(Bブロック主測線B-1ブロック副測線すべり)

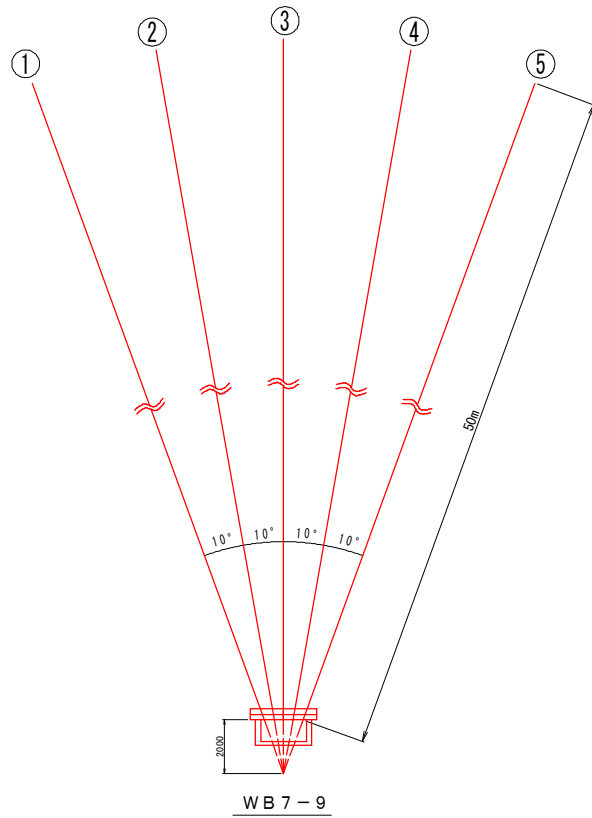
年度	R6	R7
安全率	R6H. W. L時のFs=0.98 B-1副測線すべり C' = 25.0kN/m <sup>2</sup> φ' = 18.49° γ' = 18.0kN/m <sup>3</sup> R6 H. W. L-3.0m低下時 Fs=1.049	R7H. W. L時のFs=0.98 B-1副測線すべり C' = 25.0kN/m <sup>2</sup> φ' = 19.30° γ' = 18.0kN/m <sup>3</sup> R7 H. W. L-3.0m低下時 Fs=1.045
対策工	WB7-8 WB7-9	

実施設計図面

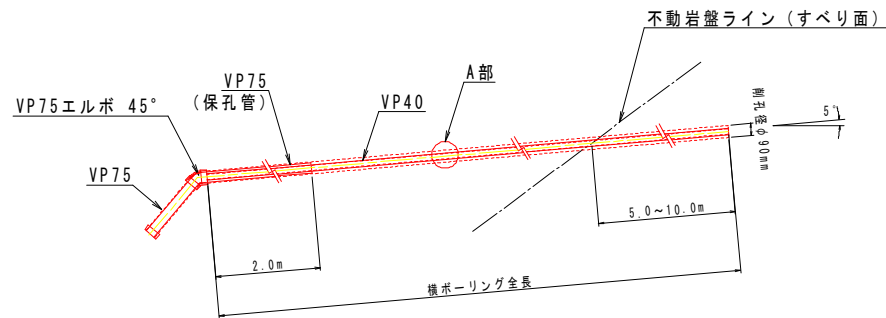
工事名	R8三土 久保地すべり 三・東根谷久保 地下水係層工事
路線名等	久保地すべり防止区域
工事箇所	三好市東根谷久保
図面名	横断図
縮尺	1:600 図面番号 2 / 4
会社名	
事業者名	徳島県三好県土整備事務所

# 横ボーリング工構造図-詳細図

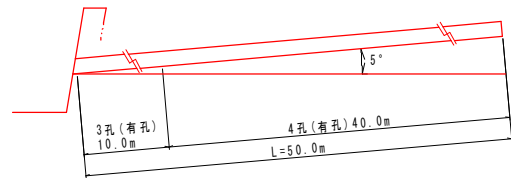
配置図 S=1/100



断面図 S=1/20



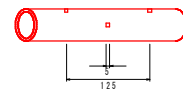
A部保孔管 (VP40) 詳細図 S=1/4



横ボ-リング数量表 (m)

孔番号	掘進長 (m)	地質別掘進長 (m)	
		硬混じり土砂	軟岩
WB7-9	250.0	175.0 (35.0*5)	75.0 (15.0*5)
計	250.0	175.0	75.0

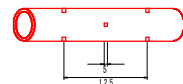
3孔側面図



3孔断面図



4孔側面図



4孔断面図



保孔管数量表 (VP40) (m)

WB7-9	3孔長	10.0*5= 50.0
	4孔長	40.0*5=200.0
合計	3孔長	50.0
	4孔長	200.0

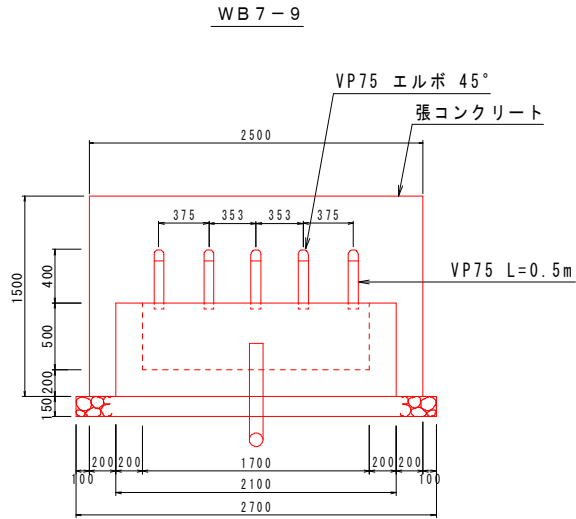
**実施設計図面**

久保Bブロック (WB7-9)

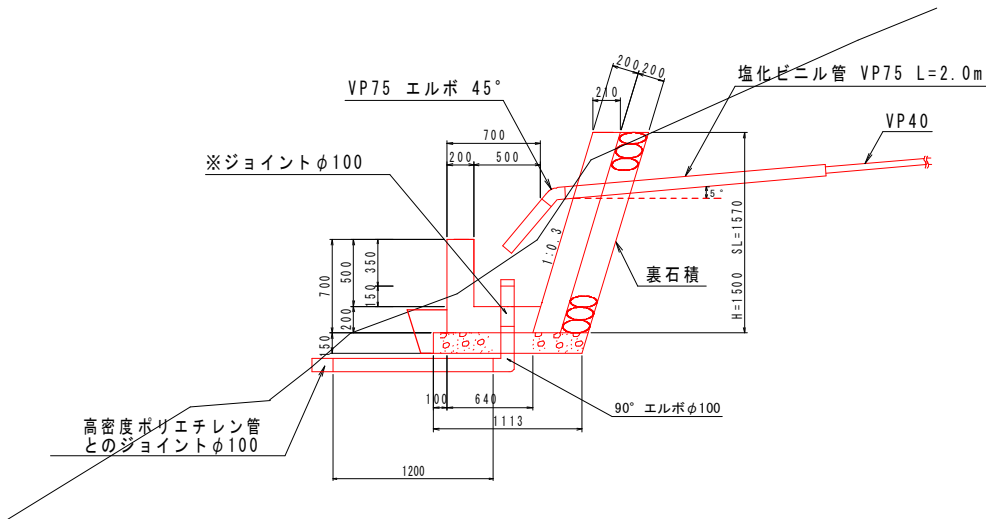
工事名	R8三土 久保地すべり 三・東根谷久保 地下水湧出工事		
路線名等	久保地すべり防止区域		
工事箇所	三好市東根谷久保		
図面名	横ボ-リング工構造図-詳細図		
縮尺	図示	図面番号	3 / 4
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

# 排水処理施設詳細図

正面図 S=1/20



断面図 S=1/20



1箇所当たり

数量計算書			
種別	算式	単位	数量
張コンクリート	$0.21 \times 1.50 \times 2.50$	m <sup>3</sup>	0.79
同上型枠	$1.57 \times 2.5 + 1.57 \times 0.2 \times 2$	m <sup>2</sup>	4.55
裏石積	$1.57 \times 2.50$	m <sup>2</sup>	3.93
集水樹コンクリート	$(0.85 + 0.64) \times 1/2 \times 0.7 \times 2.1 - (0.65 + 0.5) \times 1/2 \times 0.5 \times 1.7$	m <sup>3</sup>	0.61
同上型枠	$2.1 \times 0.7 + 1.7 \times 0.5 + [(0.85 + 0.64) \times 1/2 \times 0.7 + (0.65 + 0.5) \times 1/2 \times 0.5] \times 2$	m <sup>2</sup>	3.94
基礎砕石	$1.134 \times 2.7$ (t=0.15m)	m <sup>2</sup>	3.06
塩化ビニル管 VP75	$0.50 \times 5 + 2.00 \times 5$	m	12.5
VP75 エルボ 45°		個	5
90° エルボφ100	(流末処理工に使用)	個	1
※ジョイントφ100	(流末処理工に使用)	個	1
塩化ビニルパイプVP100	(流末処理工に使用)0.2+1.2 m	m	1.4
ジョイントφ100	(流末処理工の高密度ポリエチレン管との連結使用)	個	1

※集水樹底部の塩化ビニルパイプ立上がり部との連結に使用(脱着可能とするため)

孔口処理工 数量表

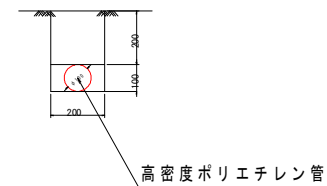
箇所	WB 7-9
項目	数量
張コンクリート	0.79 m <sup>3</sup>
同上型枠	4.55 m <sup>2</sup>
裏石積	3.93 m <sup>2</sup>
集水樹コンクリート	0.61 m <sup>3</sup>
同上型枠	3.94 m <sup>2</sup>
基礎砕石	3.06 m <sup>2</sup>
床掘り	3.24 m <sup>2</sup>
埋め戻し	0.27 m <sup>2</sup>
塩化ビニル管 VP75	12.5 m
VP75 エルボ 45°	5 個
足場(単管)	25.0 空m <sup>3</sup>

流末処理工数量 (1m当たり)

名称	単位	数量
床掘り	m <sup>3</sup>	0.060
埋め戻し	m <sup>3</sup>	0.052
高密度φ125リン管φ100	m	1.00

※高密度ポリエチレン管(波状管) 総延長 L=80m

S=1:10



実施設計図面

久保田ブロック(WB 7-9)

工事名	R 8 三土 久保地すべり 三・東根谷久保 地下水排除工事
路線名等	久保地すべり防止区域
工事箇所	三好市東根谷久保
図面名	排水処理施設詳細図
縮尺	図示 図面番号 4 / 4
会社名	
事業者名	徳島県三好県土整備事務所